

[成果情報名] プロイラーにおける抗菌性剤無添加飼料下でのトレハロースの給与効果

[要約] プロイラーの育成期間を通して無薬飼料を給与する場合、21日齢までトレハロースを0.5%添加することで出荷時の発育体重が増加し、収益性が向上する。

[担当] 山梨県畜産酪農技術センター・養鶏科・松下浩一

[分類] 技術・普及

---

[課題の要請元]

部門別農業代表者、山梨県養鶏協会、畜産普及センター

[背景・ねらい]

一般に育雛期のヒナの管理は出荷体重に大きな影響を及ぼすことから、飼料中への抗菌性資材の利用がなされているが、消費者の食品に対する安心・安全意識の高まりから、抗菌性資材の利用を極力抑えることが求められている。一方、鶏肉加熱臭の抑制に効果があるとされるトレハロースは鶏肉の保水性を高めるとともに生産性の向上に寄与すると考えられている。そこで育雛期に抗菌性資材無添加飼料を用いた場合の生産性への影響を調査した。

[成果の内容・特徴]

#### 発育促進効果

抗菌性資材無添加飼料（以下無添加飼料）あるいは無添加飼料にトレハロースを0.5%添加した飼料を0日齢～21日齢まで給与して発育性を調査した結果、

1. トレハロース0.5%添加飼料を給与することで、21日齢時の体重が優れた傾向を示し、さらに出荷時の体重は有意に増加する（表1、図1）。
2. 飼料要求率には差は認められない（表1）。
3. 正肉歩留、腹腔内脂肪蓄積率については差は認められない（表2）
4. 販売額からヒナ代および飼料費を差し引いた1羽あたりの粗収益は無添加飼料が69.80円に対してトレハロース添加区は75.97円となり6.17円優れる（表1）。

[成果の活用上の留意点]

1. 発育前期におけるトレハロース添加の発育効果は、無薬飼料給与の場合に適用。
2. 発育体重、解体成績は43日齢時のデータである。

[期待される効果]

1. 餌付け時から無薬飼料の給与をすることにより、より安全な鶏肉としてPRすることができる。

[具体的データ]

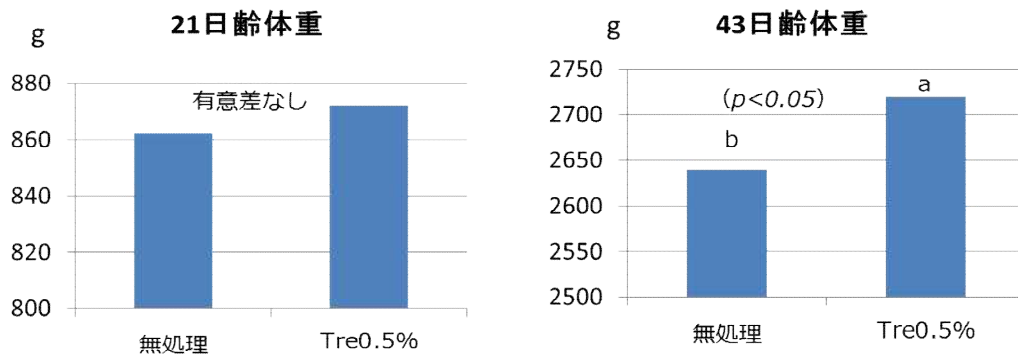


図 1 発育体重

	発育体重	飼料要求率	販売額 (A)	ヒナ + 飼料費 (B)	粗収益 (A) - (B)	差額
	g		円	円	円	円
無処理	2,640 b	1.87	456.94	387.14	69.80	-
トレハロース 0.5% 添加	2,719 a	1.84	470.63	394.66	75.97	6.17
異符号間に有意差あり (p < 0.05)						
(A) : プロイラー代 : 173.5円/kg						
(B) : ヒナ代90円/羽、前期飼料65円/kg、後期飼料60円/kg、トレハロース : 400円/kg						

	正肉歩留	腹腔内脂肪蓄積率	ムネ肉中水分含量	ドリップロス
	%	%	%	%
無処理	47.35	2.84	74.82	1.78
トレハロース 0.5% 添加	48.19	2.79	74.78	2.14
正肉歩留および腹腔内脂肪蓄積率は対と体重				

[その他]

研究課題名：鶏肉のおいしさ要因の解明と栄養飼料調整による生産技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2015～2017 年度

研究担当者：松下浩一、小林那美香